

特別講演

教育の情報化を新スタイルの 研修から授業へ

～ 一斉指導・上意下達ではない教員研修から『学び』を変える試み～

教育の情報化支援セミナーE-2
東京国際ブックフェア専門セミナー
2001.4.22.@東京ビッグサイト

岩手県立大学ソフトウェア情報学部 鈴木克明
ksuzuki@soft.iwate-pu.ac.jp
&
筑波大学附属駒場中・高等学校 市川道和
michi@mail.at-m.or.jp

(社)日本教育工学振興会(JAPET)では、文部科学省主催の「教育の情報化推進指導者養成研修用に、5枚組のCD-ROMを開発した。教育の情報化を支える研修のあり方とは何か。新しい授業へ結びつくのか。企画立案から実施の経験を踏まえて、研究者と現場教員が語る。

< 配付資料一覧 >

5日間研修事前チェック用紙
CD-ROMと支援システムの紹介画面
実験結果(研修方法別時間と事前事後変化)
研修指導案の例(改訂前と改訂後)
研修から授業へ(研究者からの期待)
研修生からのアンケート分析結果



教育情報化推進指導者（リーダ）が果たすべき役割は何か？

【キーワード：研修で学んでいただきたいこと】



それぞれ
記号を記入

現時点での自己診断

= 十分身についている
= だいたい身についている
= 不十分
x = ほとんどできない
? = わからない

研修中に注目したいと思う

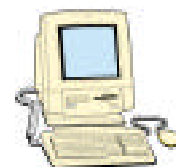
【キーワード】にも印をつけておこう！



これを深めたい

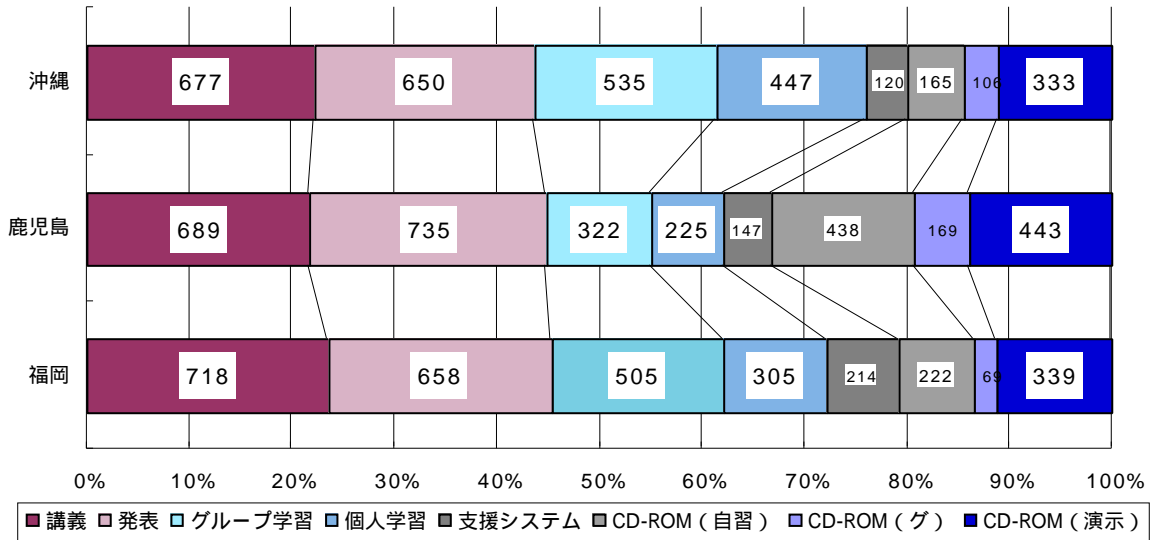
- () 1. 教育情報化の方向性を同僚や校長・教頭に説明する
【情報活用能力の3本柱，教師に求められる姿勢，情報社会の特徴，情報社会を支える技術と課題，情報教育の先進事例】
- () 2. 情報教育のカリキュラムを作成する
【学習改善とメディア利用，インターネットの必要性，総合学習と体験学習，発達段階とメディア活用，カリキュラム作成時の注意事項，先進校のカリキュラム例，パソコンとネットワークの基礎知識，校内ネットワークの設計，情報倫理とプライバシー】
- () 3. コンピュータやインターネットを使った授業を自ら計画，実行する
【学習の道具としての利用場面，教育用ソフトウェアの種類，教科学習に情報教育的な側面を組み込む方法，配付用印刷教材の作成，ハイパーテキスト教材の作成，プレゼンテーションと相互評価，共同学習・交流学习】
- () 4. 同僚や校長・教頭にコンサルテーション（アドバイス）をする
【リーダーとしての心構え，情報機器利用環境の整備，教師・児童・生徒の支援，校長・教頭への報告・連絡調整，校内研修の計画と実施，コーディネータ・地域リーダーとの連絡調整，校外組織との連携】
- () 5. 情報教育関連の校内研修を企画，実行する
【研修の流れ，抵抗感がある教師向けの研修内容，研修時間と参加者の確保，後任育成，インターネット問題対処，子どもの操作技術向上，教師の意識変革，設置環境の整備】

研修を始めるにあたっての一言メモ（上記の「期待される役割」についてなど）

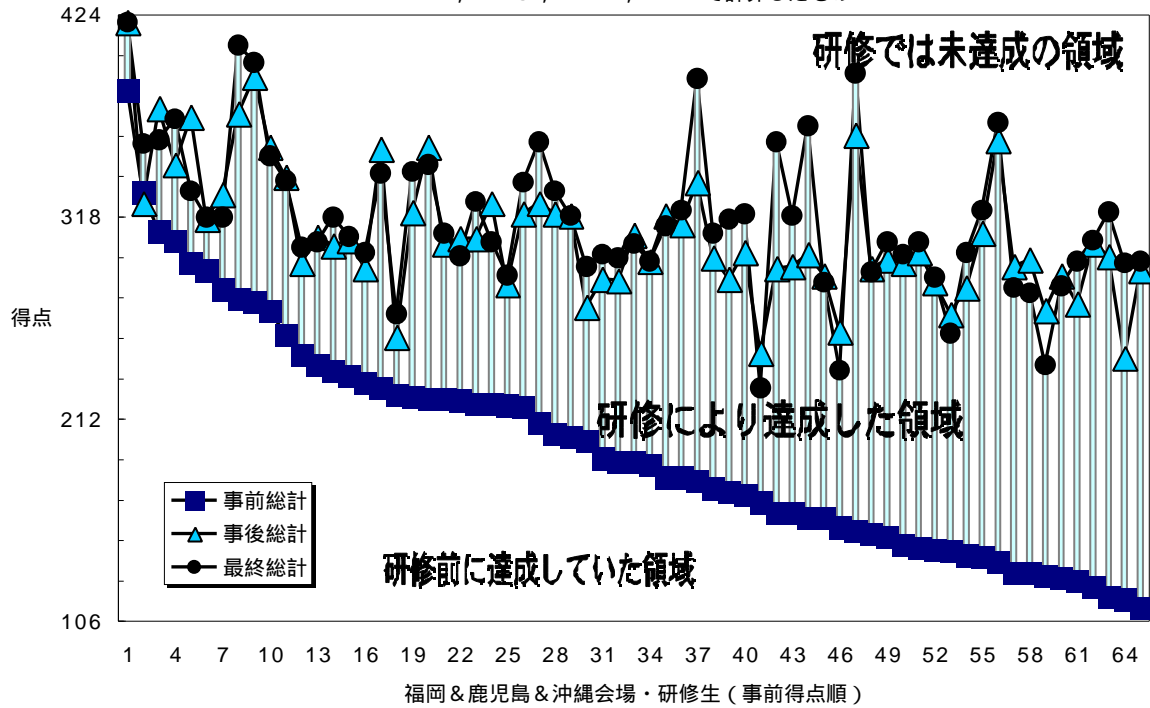


学習形態別時間（研修全体）

注釈：「講義」には、指示の時間と講師持参の独自の内容を含む。
 「支援システム」には、チェックリスト記入と、自学自習を含む。



研修効果（事前、事後、最終チェックリスト比較による）
 = 4, = 3, = 2, x = 1 で計算したもの



「総合的な学習の時間」：子どもたちが各教科等の学習で得た個々の知識を結び付け、総合的に働かせることができるようにすることを目指し、知識を教え込む授業ではなく、

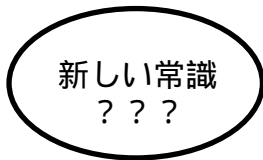
- (1) 自ら学び、自ら考える力の育成
- (2) 学び方や調べ方を身に付けること

をねらいとした授業を展開する。

情報とは？ (旧情報観)	暗記するもの 教師がいつでも正解を知っているもの 教師から教えてもらうもの
-----------------	---



情報とは？ (新情報観)	情報とは活用するもの [情報活用能力] コンピュータやネットワークを操る実践力と 情報に対する科学的理解と 情報社会に参画する態度 (文部科学省)
-----------------	--



テストは持ち込み可が原則

正解は一つに決まらないし、教師も知らないことが多い
自分で調べて、どちらの選択肢がより良いかを判断する
教師は共に考え、過去の経験に基づくアドバイスをくれるが、
それが最善手とは限らない。

学びとは自分の頭で工夫し、自分の手で道を切り開きながら進むもの。
教育の情報化には、「教える側」と「学ぶ側」の関係の見直しと再構築が伴う。

表 研修の進め方と新しい授業とのつながり

おうむ返しの伝達講習と教師主導の情報伝達型授業

- ・座学研修とその伝達からの脱却 = 教科書を教える授業からの脱却

教師が動く研修と子どもが動く授業

- ・個別・マイペース研修と討議の時間の組み合わせで進める

講師に頼らない研修と教師に頼らない学習

- ・自分の力で、手引きプリントなどを頼りに主体的研修

- ・主体的研修のお膳立てができれば、主体的学習の環境整備もできる

講師を超える部分を要求する研修と子どもに教えてもらう授業

- ・正解をいつでも講師が知っている訳ではない

- ・知らないことでも、出来映えを評価でき、改善を指摘できる講師

教科横断的な研修と総合学習的な授業

- ・コンピュータを媒介に、全教科全学年に共通の話題

- ・他教科・他学年を知ること、子どもの身になれる

過去の研修成果を参考にできる研修と情報を残せる授業

- ・最初は例示を参考に、次からは自分達の研修成果を事例に

- ・残して積み上げる。先輩の上に行く。

意欲がもてる研修と魅力的な授業づくり

- ・自分で苦労して、仲間と切磋琢磨してできあがった達成感を、授業にも